

変革 2024

60年目の大冒険。 ファミリー会の変革 (Transformation) が始動しました。

時は進む、刻々と。それにつれ、人も社会も技術も、前へ前へと進化します。
私たちFUJITSUファミリー会はそうして、とどまることのない技術革新とともに
60年の時を重ね、進化を重ねてきました。

時の速度は一定なのに、体感はずいぶん速くなったり停滞したり。
先行き不透明ないま、時の流れだけが加速しているように感じます。
流れに乘れず置いてけぼりにならぬよう、
私たち自身の、進化の速度を上げなければなりません。

10年後、2024年は新生ファミリー会「はじまりの年」と思い返せるように。
もっと明るく、もっと力強いOne Teamを目指して、
思い切った一步を踏み出す時です。

5月に開催された2024年度代議員総会、理事会での決議を受け、
すべての会員に向けて、変革の方針を紹介します。

Contents

会報Family VOL.414

2

変革 2024

3… 5つの変革ポイント

6… 代議員総会講演レポート

10

Futures' Literacy

脱炭素のリアルとゴール

15

Family's Information

2024年度 秋季大会のご案内

18

時を駆けるテクノロジー

3Xを加速させる

経営主導のモダナイゼーション

5 Suggestions

チームを内側から変える!

5つの変革ポイント 1) ファミリ会の再定義

suggestion 01 to Transform

10年後のあるべき姿に 目標を設定

2022年度から活動をしてきた「あるべき姿検討ワーキンググループ(WG)」では、将来のファミリ会の「あるべき姿」を定義し(03会則に表記)、2023年12月には、その実現に向けて必要とされる改革案を富士通役員に提案し、合意を得ました。

佐藤会長と富士通時田社長の対談で紹介した通り(413号掲載)、あるべき姿実現のためには、以下の3つの条件が必要不可欠です。今後、これらを維持しながら、あるべき姿を目指していきます。

経営層の参加

1社では解決できない企業課題について、経営層が互いに議論し、方向性を見出す場が必要。

富士通の参画

会員企業と伴走しながら会員企業と富士通が共にWin-Winの関係を構築。

ファミリ会に しかない 価値の創出

研究、討議、実証実験などの実践を通して、今までにない発想や解決策を見出せる環境の構築など。

suggestion 02 to Transform

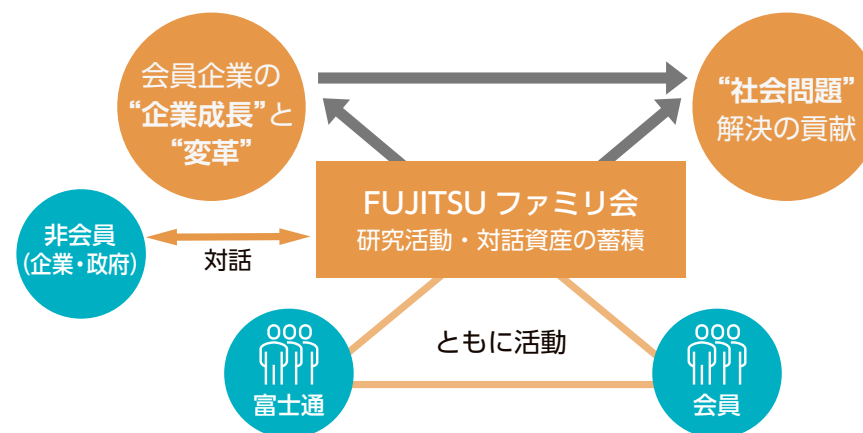
アクティブメンバー として富士通が参画

富士通グループは、2023年度よりファミリ会の運営に参画していますが、2024年度はファミリ会の一員として本格的にファミリ会活動に参加します。

富士通Japan(株)窪田会長が引き続き本部常任理事を務めるほか、各支部の幹事として、また新設された4つのWG(5ページ参照)の委員として、積極的に活動していきます。

ファミリ会が目指す姿(イメージ)

ファミリ会は国内の
企業群が集い、
会員企業が成長し、
社会の発展に
寄与する団体となる



Redefine
to Transform

変革
2024

suggestion 03 to Transform

ファミリ会の目的の 見直し(会則改定)

「あるべき姿」の定義をもとにファミリ会の目的を以下のように定め、代議員総会での承認を得て会則を改定しました。

第2条(目的)

本会は会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考え、研究討議・実践し、解決に繋げることで、会員企業の利益増進、地域および社会の成長、発展に寄与することを目的とする。

5 Suggestions

チームを内側から変える!

5つの変革ポイント 2) 2024年度に始める新たな活動



あるべき姿に向けた 2024年度活動方針

2024年度ファミリー会は、新たに掲げた目的「会員企業の課題解決に向けて、会員と富士通が共に考え、研究討議・実践し、解決に繋げることで、会員企業の利益増進、地域および社会の成長、発展に寄与する」を活動の基本方針とし、以下の活動テーマに取り組みます。

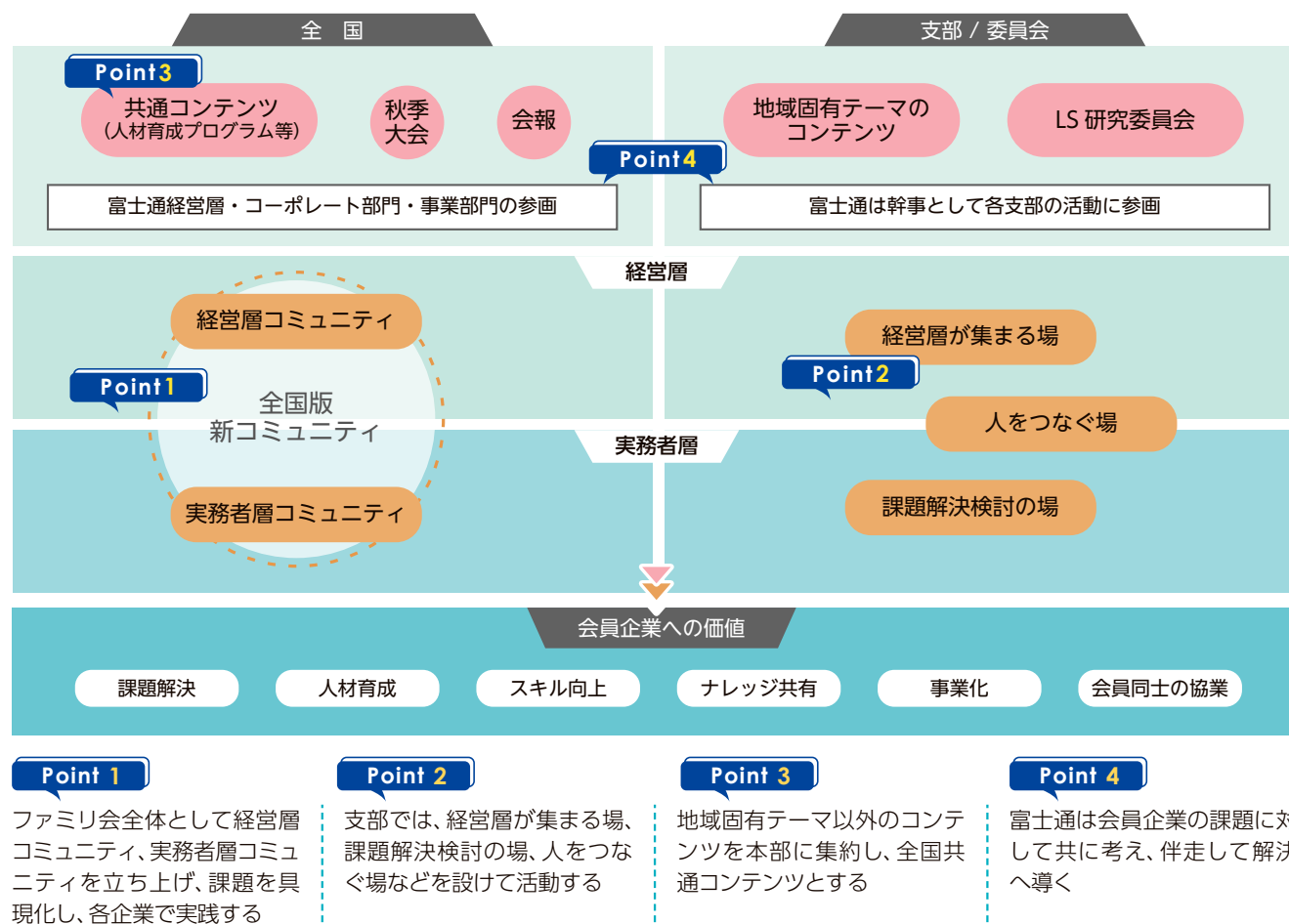
- 2024年度は以下を全体共通のテーマとし、解決に向けて取り組む。なお、各地域固有のテーマがある場合は、各地域が主体的に取り組む。

人材	採用・エンゲージメント向上など
2025年の産	モダナイゼーション・マルチベンダーなど
SDGs対応	カーボンニュートラル、サプライチェーンマネジメントなど
先進テクノロジーへの追従	生成AI・Web3.0など

- 解決に向けた活動(コミュニティ活動)
同じ課題認識を持つ会員(経営層、実務層)が集い、原因理解と解決に向けて仮説立案を行い実践する。実践により得られた結果を評価・検討・分析し、会員へ共有する。
- 課題解決に必要な情報収集
課題解決に必要なコンテンツを提供する。
- 地域を越えた活動
各地域の枠を越えた活動の展開と、地域の情報発信による地域間連携の強化。



2024年度活動方針に沿った施策展開



5 Suggestions

チームを内側から変える!

5つの変革ポイント 3) 事業推進体制

suggestion
05
to Transform

事業企画委員会・ワーキンググループの新設

2024年度は、あるべき姿に向かって中長期的な取り組みを始める重要な年です。新たな組織・体制で施策の実行に臨むため、本部に「事業企画委員会」を立ち上げ、4つのWGの活動がスタートしました。各WGの本年度の検討事項は以下の通りです。

施策推進 WG

- 2024年度活動の具体化と実施(経営層・実務者層コミュニティの企画)
- 2025年度以降の進め方の検討

ブランド検討 WG

- ブランドアセット変更の是非と変更する場合の進め方
- 変革を伝えるブランディング要素の検討と実施スケジュール

収支検討 WG

- あるべき「収支構造」の構築に向けた収支・予算配分のシミュレーションと検討

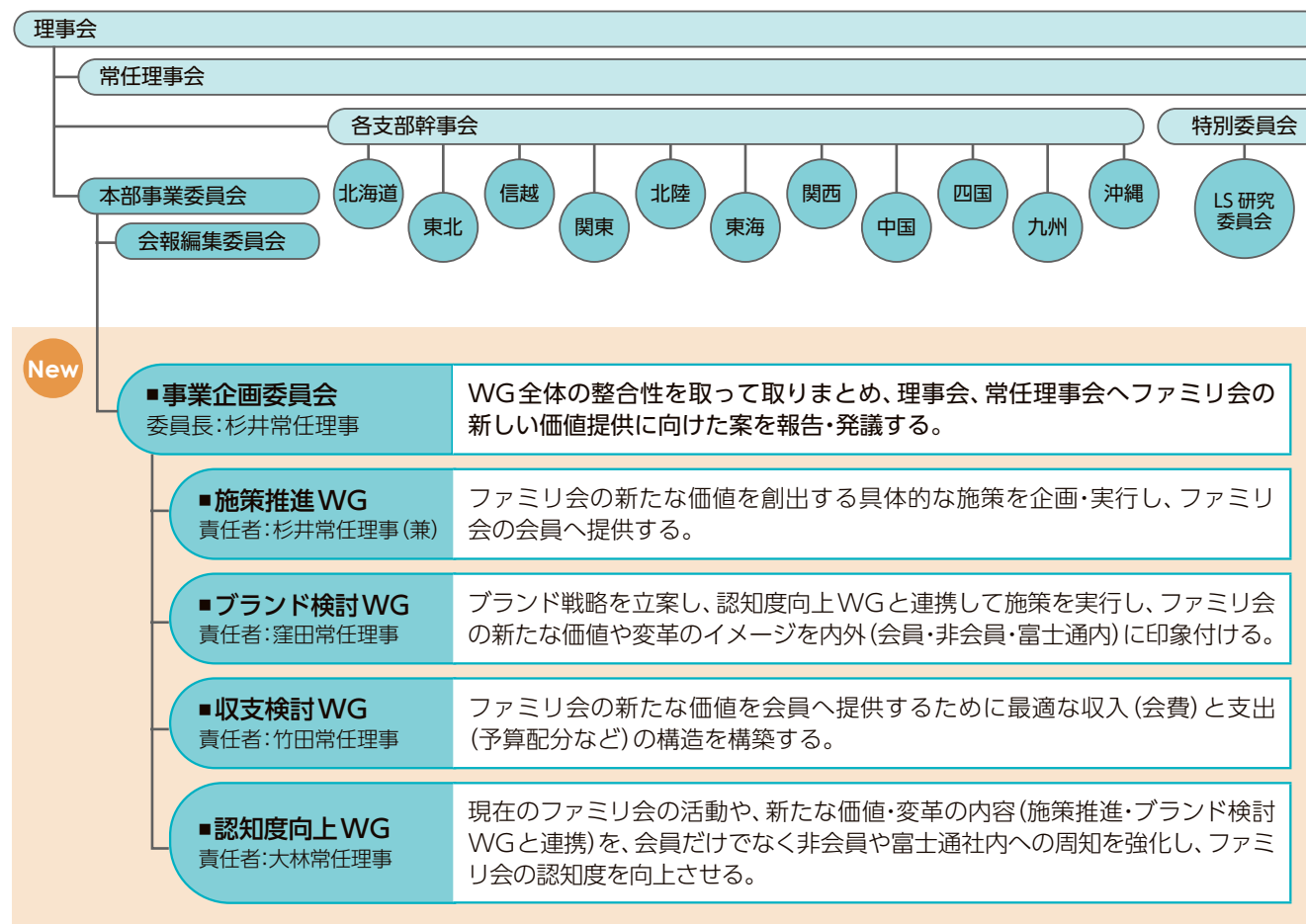
認知度向上 WG

- 活動情報の発信強化
- 会の変革を会員だけでなく非会員、富士通社内へ周知

Approach
to Transform



事業推進体制と事業企画委員会・WGの目的



新生FUJITSUファミリー会キックオフに寄せて

～ 富士通からのメッセージ ～

日頃より富士通製品、サービスをご利用いただきまして、厚く御礼を申し上げます。

本日、FUJITSUファミリー会の代議員総会・理事会が滞りなく終了したとお聞きしました。ファミリー会は1964年の設立から今年で満60周年の節目にあたるのとこと、心よりお祝い申し上げます。60年、時の流れを感じます。私の入社が1982年なので、ずいぶん先輩にあたります。

もともとはユーザー会ということで始まったファミリー会ですが、昨年12月に佐藤会長ほかファミリー会役員の皆さまから時田と私あてに、「ファミリー会は変わらなければいけない」という提言をいただきました。本日の代議員総会・理事会でもそのような話があったことと思います。

時代も変わり、富士通もハードウェア製品の開発・生産・販売主体の事業経営から、サービスソリューション主体にシフトしてきました。今、公表している事業ポートフォリオで見ると、サービスソリューションの売上は、ハードウェアソリューションの売上の約2.5倍になっています。従来のように、我々が一方的にモノを作って、お客様に提供すると

いう時代ではなくなったと言えます。

2019年に時田が社長に就任し、現在の経営体制になってから、富士通自身もガラッと、その在り方を変えてきています。まず、私たち自身の変革を皆さまにきちんとお伝えし、やっていることを皆さまと共有します。それらを以て、皆さまの新たな価値に変えていく。そういった変革に伴い、ファミリー会と富士通の関係性も変わっていかねばならないと考えています。もっともっと我々富士通の役員と皆さまとで、直接的に会話できる場を作らなければいけないと思っています。

富士通がテクノロジー企業であることに変わりはありません。ファミリー会と富士通との関係は、共創パートナーだと思っています。僭越ではございますが、佐藤会長のお言葉にあったように「皆さまと

共に、日本を強くする」ということに注力していきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

富士通株式会社 取締役会長

古田 英範

Hidenori Furuta



富士通の眼 ～AIと共創でビジネスを変革～

変革
2024



富士通からの情報提供では、テクノロジー企業として、技術戦略本部長から最新の技術情報をお伝えしました。

生成AIの進展

2022年に登場して以来、誰もが話題にしている「ChatGPT」に代表される生成AI (Generative AI)。皆さまも一度は使ったことがあるという程度に浸透してきていると思います。しかし、ビジネスの現場でどう使うかは様子見で、使用を控えている企業もまだあるようです。これまでのAIの歴史を経て、いよいよビジネスへの普及が期待される生成AIですが、様々なAIを組み合わせることで、より広範な用途に活用できるようになると考えています。

そんな中、5月13日に「GPT-4o」がリリースされました。このような汎用的なLLM (Large Language Model : 大規模言語モデル) では大量のデータが発生します。必要な情報とともに不要な情報も発生するため、処理速度が遅くコ

ストも高くなると私たちは考えていました。日本市場には日本語のLLMで、製造業向け／流通業向けといった特化型 LLMが絶対に必要だろう、そこに富士通としてのチャンスがあるだろうと。しかし、リリースされた「GPT-4o」は想像以上に速く値段も安くなっており、汎用型LLMの進化の速さに驚きました。

一方で、生成AIがもたらすリスクへの懸念も存在します。学習したデータが、許可された権利のあるデータか、著作権の侵害はないか。また皆さまの企業で持っている競争優位となるデータと汎用型LLMと組み合わせて使う場合に、社内の情報が漏洩しないか、犯罪に巻き込まれないか、偽情報に騙されないかなど。これらの懸念事項を取り除く対策を富士通が講じていくべきだと考えています。

富士通のテクノロジービジョンと技術戦略

これまで富士通は、自社で研究開発をして、製品を作っ

て、自社の営業が売ること、利益を最大化するビジネスモデルを採用してきました。しかし、今グローバルで大きな成功を収めている会社を見ると、そうではない企業がほとんどです。彼らのように富士通も「こういうことをやりたい」とパーパスを共有して、1つの社会課題をほかの企業等と共に解決する姿勢が重要です。「地球をもっと良くする」という大きなパーパスを共有し、みんなで集まり各自の強い技術や高い能力を結集しながら何か新しい価値を作る必要があります。オープンイノベーションの文脈で私たちは変わっていかないといけないと感じます。

そこで、富士通はAIプラットフォーム「Fujitsu Kozuchi」の先端AI技術など活用し、社会課題に挑むソリューション「Fujitsu Uvance」を通じて価値を提供しています。これは、技術をビジネス化するスピードを加速させるとともに、外部と連携しながら新しい価値を創造します。これまでのように、新しいサービスを作りましたと完成品を提供するだけではなく、研究開発中のものを皆さまに公開して、評価を受けながら「一緒にやってみよう」とお仲間になっていただきたいと考えます。

今、Fujitsu Uvanceを支えるため、研究開発チームは5つの技術領域にフォーカスしています。Computing、Network、AI、Data & Security、そしてConverging Technologiesの5つで、これらは今後、特に重要になる技術領域です。中でもAIは、機械に対して指示を出し結果をもらうという関係から、ときには先生に、友達に、上司になります。あらゆる角度から見て、パートナーつまりバディになるだろうと考えています。

Lecturer

富士通株式会社
技術戦略本部 本部長

岡田 英人

Hideto
Okada



Profile

1991年入社～

- 自治体のお客様向けに自治体業務アプリケーションパッケージ(企画・開発・導入・保守・拡販)を担当

2016年～

- パッケージの中でも土木・介護福祉分野を中心に担当し、自治体の新規ビジネスを兼務
- 電子申請／電子調達などオンプレミスからSaaSへの大きな転換を経験

- 第二行政ソリューション事業本部長として既存ビジネス強化だけでなく保育所入所選考AI・スマート窓口ソリューションなど「自治体DX」を推進

2020年

- 富士通研究所に異動し、特に事業部門との連携を強化する役割を担う

2021年～

- 技術戦略本部長として、全社技術戦略を担当し、米国(シリコンバレー)に赴任

富士通の眼 ～AIと共創でビジネスを変革～



AIをきっかけにビジネスを変革する

私たちは、AIの性能を評価するコンテストで世界一を獲得した技術や、理化学研究所と開発したスーパーコンピュータ「富岳」に代表されるような、世界トップレベルのコンピューティング技術を持っており、それらを上手く組み合わせたいと考えています。加えて、PoCを含めて、7000件以上のAI導入経験があります。まずは、特化型生成AIに力を入れ、皆さんの企業でお持ちのデータと、世の中にあるデータを組み合わせ、最適な答えを導くためのツールを提供します。そのために例えば、マーケティングやエンジニアリングなど、特定の分野における生成AI混合技術*と、偽情報に騙されないようにするためのトラスト技術の2つに磨きをかけます。

AIは変化のスピードが速く、専門知識がないと導入できないなど様々な課題からビジネスシーンに浸透してきませんでした。そこで2023年4月にFujitsu Kozuchiを発表しました。これまで複数あったAIテーマを1か所に集め、富士通のAIはここを通じて提供するというAIプラットフォームです。富士通で研究開発中のAI技術をすべて試すことができる環境で、独自開発の生成AIも、世界一を獲得した精度の高いビジョンAI（映像を解析する技術）もあります。それらの先端AI技術を使って、富士通のエンジニアと一緒に、AI導入を支援します。

具体的には右図のオレンジで示した「AIコアエンジン」（富士通が持つAIのコア技術単位のソフトウェア部品）と緑で示した「AIイノベーションコンポーネント」（お客様のビジネス課題を解決するために必要なAI技術をユースケー

ス単位でパッケージしたコンポーネント）があります。AIコアエンジンは、例えば、FujitsuAutoMLを知っている人ならそのまま使える技術そのものです。AIイノベーションコンポーネントは、研究開発チームが経験してきた知見をベースに、作業者の分析や製造現場での不良品の検出といった具体的なユースケースに合わせてアプリケーションとして提供します。1年間で約50のエンジンとコンポーネントをリリースし、それらを全世界のお客様に約500回説明し、約100件のPoCを実施しました。

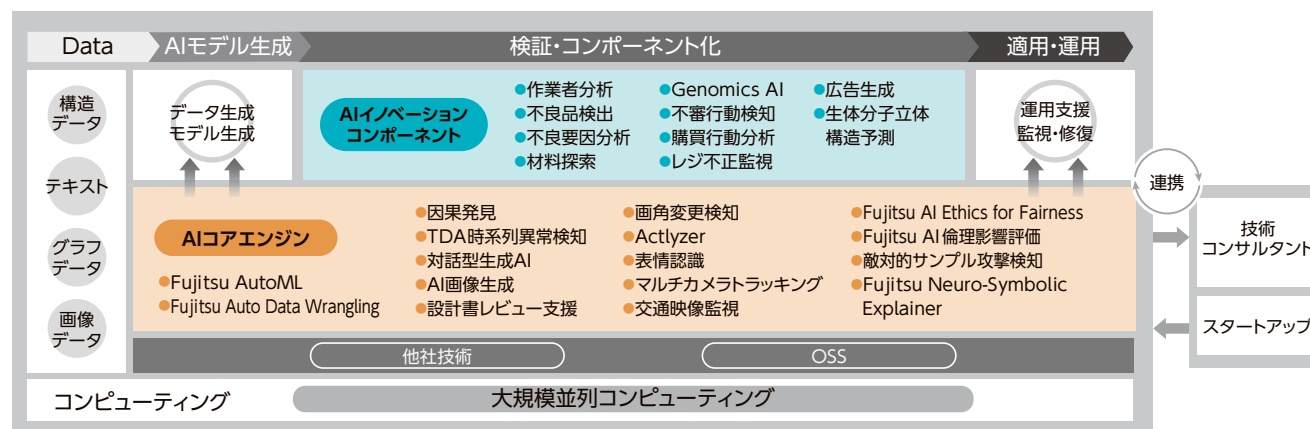
富士通はこれまで受託システム開発を中心にビジネスを成長させてきました。そんな富士通から見たとき、打ち出の小槌とは何か。例えば、皆さんからいただく提案依頼書を入力すると、提案書が仕上がり、プロトタイプも自動で生成できるというように、小槌を振れば願いが叶う、それ

がFujitsu Kozuchiです。前述の例は、汎用型LLMと富士通の中にあるデータセットを使って実現したいと思っていますが、まだ完成はしていません。目指すべきは、打ち出の小槌という世界観で、要件を詳細化し、複数のAIを活用してAIモデルを作る技術を現在研究開発中です。

先ほど、AIはバディになるとご説明しましたが、富士通はFujitsu UvanceのSustainable ManufacturingやTrusted Societyを通じてAI技術をお客様に提供したいと考えています。富士通のAI技術を組み込んだオファリングを22件予定しています。また、技術はわかっているからそのまま使いたいというお客様向けには、そのまま使えるFujitsu Kozuchiの各技術を用意しています。AIだけではなく、データの収集、セキュリティ技術もセットで使いたいというお客様には、「Fujitsu Data Intelligence

Fujitsu Kozuchi - 研究開発版 構成

スピード、進化、展開容易性を特徴とするクラウドベースのAIプラットフォーム



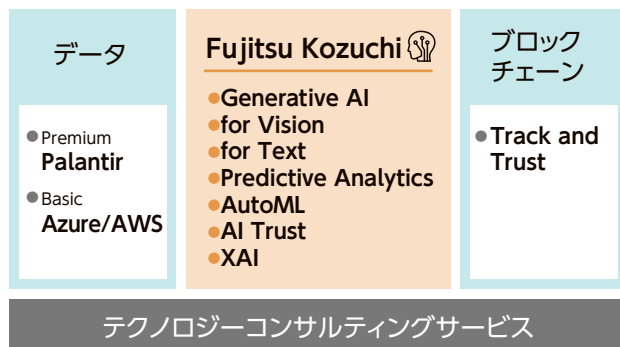
富士通の眼 ～AIと共創でビジネスを変革～

変革
2024



Data Intelligence PaaS

AIを自由に使いこなせる基盤とテクノロジーコンサルティングサービス



PaaS」といったプラットフォームを提供し、コンサルティングサービスもご提供しながら皆さんと進めていきたいと思っています。

また、外部機関との連携も積極的に進めています。シリコンバレーにいるチームがスタートアップ企業と連携し、当社AI技術を各企業のサービスに採用していただくなど具体的な成果を上げています。スタートアップ企業には、Fujitsu Uvanceのオファリングもお届けしたい一方で、富士通の研究開発段階の技術にも興味を持っていただき、一緒にビジネスを立ち上げていきたいと思っています。

AIを支えるテクノロジー

最後に、AI活用をサポートする技術をいくつかご紹介いたします。

まずは、AIのトラストを実現する3つの技術です。フィッ

シングURL検知技術は、対話型生成AIを悪用した回答中のフィッシングURLにユーザーがアクセスするのを防ぐ技術です。複数のモデルによる検証を組み合わせることで、従来の不正URL検知では検出できない攻撃URLを検知できます。対話型生成AIがもっともらしい回答を行ってしまうハルシネーション対策技術も開発しています。この技術は、生成AIの回答にハルシネーションスコアを付与することでハルシネーションかどうかの判定を可能にしています。3つ目が、ディスインフォメーション（偽情報）対策技術です。この技術の活用により、例えば災害時にライオンが逃げたといった偽情報が出た場合、それに対し専門家や関係者がどう言っているか、どこからアップロードされた動画かという位置情報と合わせて、正確性を確かめることが可能になります。

また、AIと言えばGPUが必要だと言われる一方で、グローバル規模でGPU不足に直面しています。欲しくてもなかなか買えない、注文しても半年程度待たないと届かないという状況であるため、GPUをもっと効率的に使う方法がないかと考えています。すべてのAI学習処理にGPUを使うわけではないため、GPUを必要とする処理にGPUを動的に割り当て、CPUとの組み合わせを効率的に行うことで、半分のコストでGPUを使うことを目指して技術開発に取り組んでいます。

さらに現在、量子コンピュータの研究開発も進めています。一般的には実用化までに時間がかかると言われていますが、量子コンピュータ上で動くアプリケーションの開発は急務だと考えます。そこで、古典コンピュータ上で動く

量子シミュレータを開発しました。まだまだ量子ビット数としてはわずかですが、いわゆる量子アーキテクチャでアプリケーションを作ることができます。実機で試すことができる特徴を活かして世界中の人に対し、「一緒に作りませんか」とアイデアを集め、良いアイデアに対して賞金を出すコンテストを昨年実施しました。残念なことに日本からの応募はなく、インドやフィンランドなど外国からの応募でした。富士通は、量子コンピュータを作って量子アプリケーションを自ら作るというよりも、量子コンピュータを開放して、一緒にアプリケーションを作りましょうという方向に変わってきています。

「Fujitsu Kozuchi」では、お客様の評価を聞き「いいね」と言っていたものについて、どんどん商用化を進めています。一方で「自由に試せるところはないの?」というお声もいただきます。機能は限定的になりますが、「Fujitsu Research Portal」で、研究開発段階の技術を公開しています。まだまだ発展途上ですが、一度ご覧いただければと思います。少しでも触れていただき、それをきっかけにコラボレーションがスタートできれば幸いです。

※生成AI混合技術：入力タスクに応じて複数の特化型生成AIモデルから最も高い性能が出るモデルを選択あるいは複数組み合わせで自動生成する技術

Fujitsu Research Portal

富士通の先進技術のAPIやWebアプリケーションを無償で公開しています。

